



マルク・マルケス選手、もてぎで完璧なスプリントレースを披露し、Ducati Lenovo Team に勝利をもたらす。フランチェスコ・バニャイア選手は終盤にリタイア

Ducati Lenovo Team は、もてぎで開催されたスプリントレースでマルク・マルケス選手が優勝を飾り、今季 22 回目のスプリント勝利を獲得しました。一方、フランチェスコ・バニャイア選手は残り 1 週の時点でリタイアを余儀なくされました。

マルケス選手は予選 2 番手から素晴らしいスタートを決め、最初の 2 つのコーナーでトップに浮上。その後はレースを完璧にコントロールし、そのままトップチェッカーを受けました。

予選 13 番手だったバニャイア選手は、スプリントの大半でトップ 10 争いに加わっていましたが、レース後半に深刻なグリップ不足に見舞われます。最終的にはその影響で、残り 1 周を前にピットへ戻ることとなりました。

Ducati Lenovo Team は、本日（2026 年 10 月 4 日）、日本時間の午前 9 時 40 分から行われるウォームアップ走行に臨みます。その後、24 周で争われる日本グランプリ決勝レースが開催されます。

マルク・マルケス選手（#93 Ducati Lenovo Team） – 優勝

「フロントロウ、特に 1 列目の前方 2 グリッドを確保できたことが、良いスプリントレースにつながる大きな要因でした。今回のレース前に小さな変更を加えたことで、バイクのフィーリングが大幅に改善し、自分らしいライディングができました。レース中は先頭で非常に快適に走ることができ、この勝利をととても嬉しく思っています。今は決勝レースに集中しています。リアのソフトタイヤの状態を分析し、明日に向けて最善の選択をしなければなりません。簡単なレースにはならないでしょうが、今日と同じフィーリングで走れるなら迷わずサインします。」



フランチェスコ・バニャイア選手（#63 Ducati Lenovo Team） – リタイア（DNF）

「厳しいスプリントレースになりました。新しいアスファルトに対してリアタイヤがどのように機能するのか予測が難しい状況でした。私たちは最適だと考えられる妥協点を選択しましたが、グリップが不足するとタイヤはオーバーヒートしやすくなり、残念ながらその状況に陥ってしまいました。6周目あたりからコーナー進入時に振動が発生し始め、それを抑えるためにリアブレーキを多用することになりました。その結果、リアタイヤの温度が大きく上昇してしまいました。もう少しグリップを改善する必要があります。そうすれば、もっと良い結果を残せるはずです。」

【報道関係者のお問い合わせ先】

ドゥカティジャパン株式会社

PR & Marketing

Digital Marketing Specialist

高野桃波

momoha.takano@ducati.com

045-565-9356